

授業づくり ガイドブック

■ 授業力アップ ■

【改訂版】



千葉県総合教育センター

<はじめに>

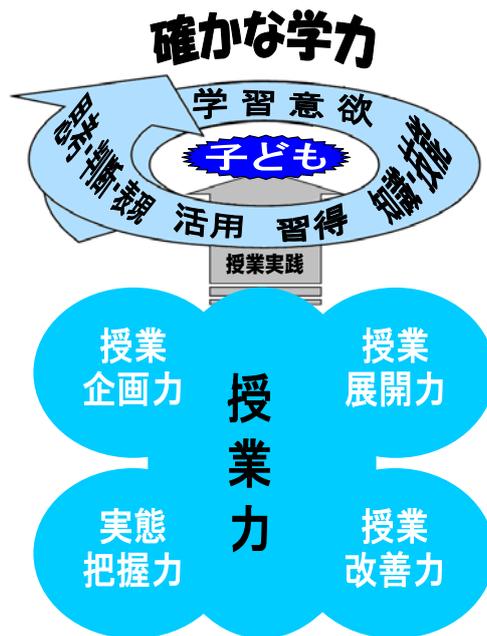
平成20年度に、研究主任層を対象とした「校内研究ガイドブック」を作成した。これは、校内研修推進の中心となる教員層の力量の向上を図り、各学校で、全教員が「授業力」向上の意義や必要性を理解し、資質能力のレベルアップへの意欲をもてるような、実効性のある校内研究が実施されることを期待したものである。

平成21年度は、より多くの教員を対象として「授業力」の向上をねらう「授業づくりガイドブック」を作成することとした。

校内研修で組織的に取り組むだけでなく、個々の教員が、自らの「授業力」を振り返り、日々、研修を重ねる一助となるようなガイドブックを目指した。

本書では、「授業力」を右図にある4つの力としてとらえた。そして、これら4つの力について、何をどのようにすればよいのか、具体的に分かりやすく示すように努めた。本書を参考にして、「授業力」の4つの力を総合的に向上させ、授業実践を通して児童生徒の確かな学力の保障ができるように努めていただきたい。

さらに、「校内研究ガイドブック」と「授業づくりガイドブック」を併用することにより、豊かな教育実践が展開されることを期待するものである。



主な参考文献等

- 北俊夫『社会科の思考を鍛える新テスト』（明治図書 2004）
- 北尾倫彦編『学びを引き出す学習評価』（図書文化 2006）
- 千々布敏弥編著『教師のコミュニケーション力を高めるコーチング』（明治図書 2008）
- 市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』（図書文化 2009）
- 学校授業力向上研究会編著『若い教師のための授業づくりのポイント』（学陽書房 2009）
- 国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法の工夫改善に関する参考資料』（平成14年2月）
- 国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』（平成23年11月）
- 文部科学省『補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集』（平成14年度）
- 東京都教育庁『授業改善ハンドブック』（平成16年6月）
- 岐阜県教育委員会『評価の手引き』（平成16年6月）
- 北九州市小学校算数科特定課題調査研究推進委員会『確かな学力を育てる算数科の授業創造』（平成17年12月）
- 東京都教職員研修センター『平成17年度学力向上を図るための指導に関する研究』（平成17年度）
- 京都市総合教育センター・カリキュラム開発センター『授業力向上にむけて大切にしたい視点』（平成18年3月）
- 北九州市立教育センター『教師のしおり』（平成19年1月）
- 神奈川県教育委員会『学習評価ハンドブック』（平成19年4月）
- 中央教育審議会『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』（平成20年1月17日）
- 長崎県教育センター『「教えて考えさせる授業」公開授業研修会報告』（平成21年2月）
- 千葉県総合教育センター『新しい学力観に立つ評価法に関する研究』（平成8年3月）

I 授業企画力 P 2 ~

☆ 確かな学力を育てる授業を企画しよう

- 1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう p 2
 - (1) 学力を保障する年間指導計画をつくろう
 - (2) 習得・活用・探究の視点を重視しよう
- 2 単元の指導計画を考えよう p 3
 - (1) 学習内容の系統性を分析しよう
 - (2) 単元の目標を分析しよう
 - (3) 評価規準を設定しよう
 - (4) 単元の指導計画を考えよう
- 3 指導案を書こう p 7
 - (1) 本時の展開を考えよう
 - (2) 自分スタイルの略案を書いてみよう
- 4 授業に生きる教材研究をしよう p 9
 - (1) 教科書を見直そう
 - (2) 教材をつくってみよう

II 授業展開力 P 11 ~

☆ 分かる・できる授業をしよう

- 1 授業のための雰囲気づくりをしよう p 11
 - (1) 児童生徒の立場に立った話し方を心がけよう
 - (2) 話しやすい雰囲気や環境をつくろう
 - (3) 教室掲示を整えよう
- 2 授業展開を工夫しよう p 12
 - (1) 個に応じた授業を工夫しよう
 - (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習を工夫しよう
- 3 授業スキルを高めよう p 15
 - (1) 発問の働きを考えよう
 - (2) 作業指示を入れて発問をしよう
 - (3) 分かりやすい板書を工夫しよう
 - (4) 学習の足跡が分かるノートにしよう
 - (5) 授業を活性化させる指名を工夫しよう

III 実態把握力 P 18 ~

☆ 子どもたちの姿を正しく把握しよう

- 1 実態把握の見直しをもとう p 18
- 2 学習前に実態を把握しよう p 18
- 3 学習中の実態を把握しよう p 20
 - (1) 具体的な評価規準を基に評価しよう
 - (2) 評価結果を児童生徒にフィードバックしよう
 - (3) 評価結果を記録しよう
- 4 学習後に実態を把握しよう p 21
 - (1) 各観点をバランス良く把握しよう
 - (2) 複数の評価方法を組み合わせて把握しよう

IV 授業改善力 P 22 ~

☆ 授業を見直して改善をしよう

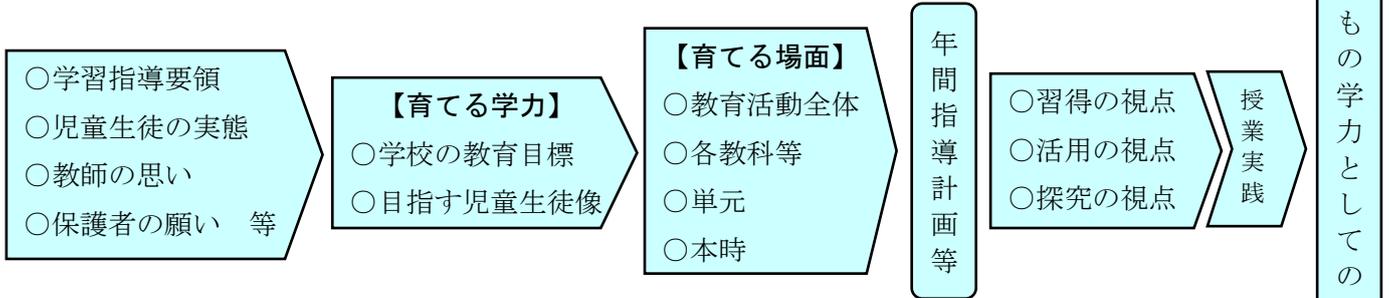
- 1 授業を見直そう p 22
 - (1) 授業改善の流れをとらえよう
 - (2) 協働で授業改善をしよう
 - (3) 意見や感想も考察に役立てよう
 - 2 形成的評価で指導と評価の一体化を図ろう p 24
 - 3 全体を振り返ろう p 24
- ※ 授業力チェック表 (例)

I 授業企画力 ☆確かな学力を育てる授業を企画しよう

1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう

育てる学力が、年間を通して意図的・計画的に児童生徒に育まれるよう、年間指導計画等を作成し、日常の授業で具現化されるように授業構想を練る。

【授業構想のイメージ図】



(1) 学力を保障する年間指導計画をつくろう

各教科等の課題を明確にして、取り組む内容を年間指導計画に位置付けることが重要である。

【重点課題を位置付けた年間指導計画の例】

年間指導計画等は、PDCAのP（プラン）の段階です。項目の中に、学校が目指す内容をきちんと位置付け、見通しをもった取組とすることが大切です。



第○学年 ○○科 年間指導計画

教科目標 (1) 学習指導要領の目標、学校の教育目標を考察して書きましょう。
(2) 実態調査等から、各教科等の課題を把握し、具体的な方策などを示しましょう。

重点課題 ○ 自分のやり方や考えを分かりやすく書いたり説明したりする活動の充実。(言語活動の充実)
○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着。(繰り返し学習などの工夫)

月	単元名	時数	学習目標	学習内容	評価	重点課題	
						言語活動	基礎的・基本的な知識・技能
4	1	8	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○～と関連付けながら説明する。	○～が分かる。 ○～ができる。
	2	12	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○～を言葉や図などを使いレポートにまとめる。	○～を正しく使用できる。 ○～をグラフ等にかける。
	5		9	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○～の根拠をあげながら話し合う。
		6	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	○
		10	◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	○

児童生徒や地域の実態から、何月に、どの単元を、どのくらいの時数で指導することが適切かを考えて決定します。年間総時数との関連も考慮しましょう。

学習指導要領の「学年の目標と内容」や教科書等を基に、単元や各時間の学習目標を書きましょう。

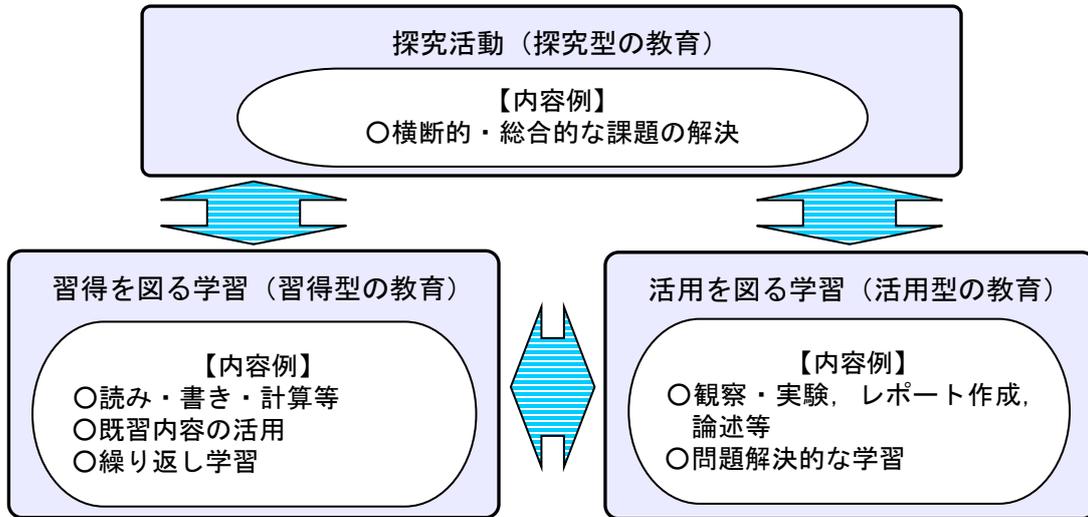
学習目標の達成度を評価する規準を書きましょう。

教科書等を基に、目標達成のために、主となる学習内容や活動を示しましょう。

重点課題に応じて、手立てや内容を具体的に示し、年間を通じた意図的な取組になるようにしましょう。

(2) 習得・活用・探究の視点を重視しよう

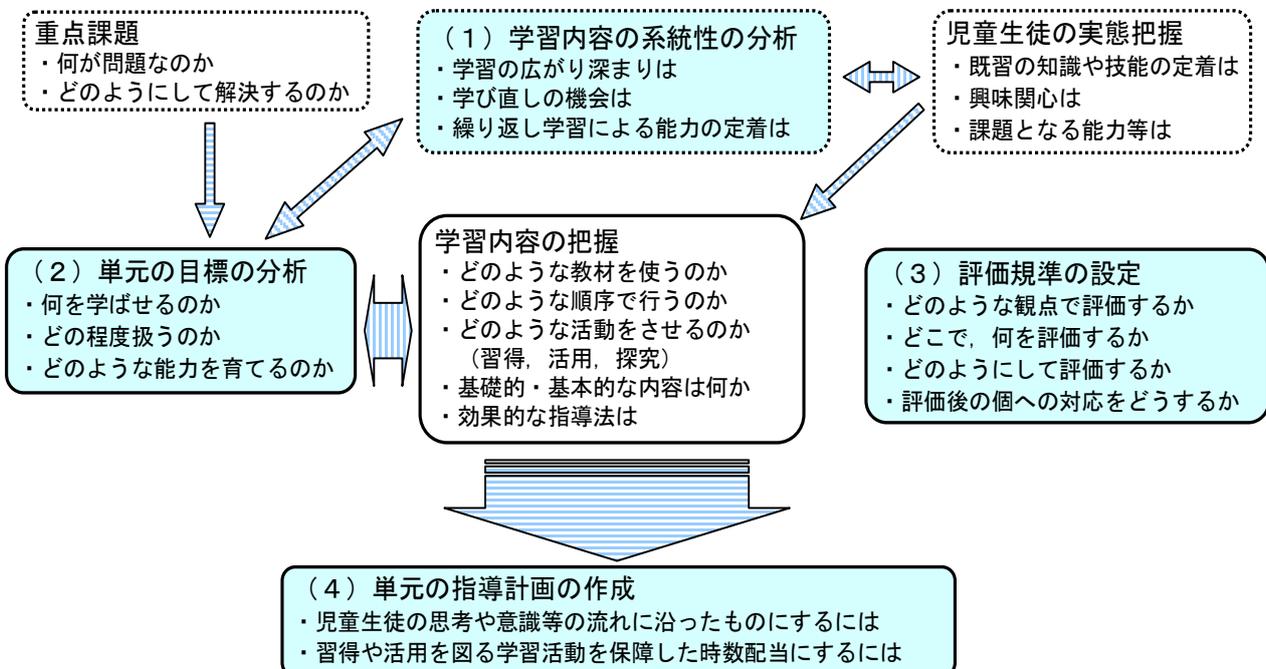
年間指導計画等の作成にあたり、習得、活用、探究の視点を重視し、自校の重点課題として取り組む内容を明示するなどして、授業実践に反映できるようにすることが大切である。



2 単元の指導計画を考えよう

年間指導計画をより具体化して単元の指導計画を作成する。この時、下の図にあるようにそれぞれの関連を見通して作成することが大切である。

【単元の指導計画づくりの流れ】

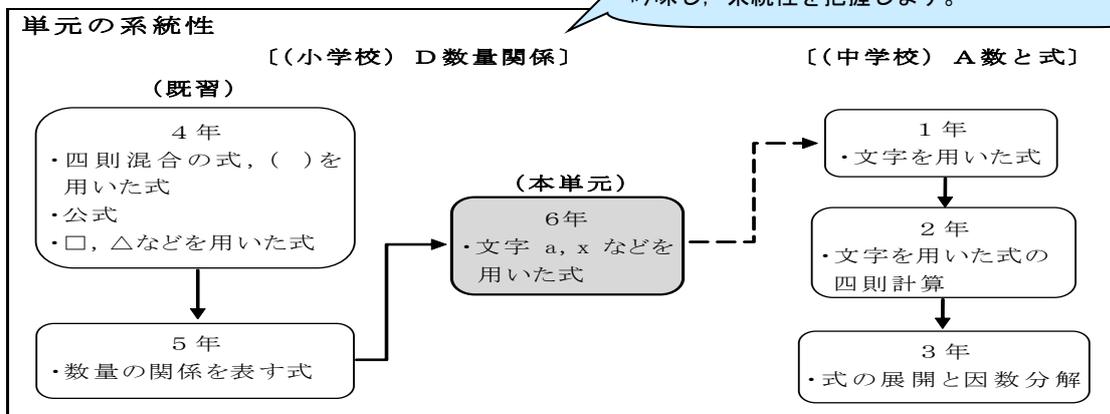


確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの双方が重要です。これらのバランスを重視した単元の指導計画を工夫しましょう。

(1) 学習内容の系統性を分析しよう

学習指導要領等を基にして、学習内容の学年内での広がり、他学年との関係での深まりや重なりなどを把握する。

【単元の系統性の書き方 例（小6 算数）】



他学年の教科書を参考に、単元名や小単元名、習得させる基礎的・基本的な知識・技能等の関連を具体的に把握すると、本単元の指導内容が一層明らかになります。



(2) 単元の目標を分析しよう

単元の目標や単元の観点別目標、重点課題への取組を「何を学ばせるのか」「どのような能力を育てるのか」という観点で分析し、具体的に表現する。

【単元の目標分析の方法 例（小4 社会）】

5月 単元名「ごみのしまつと利用」 全10時間

学習目標 学習指導要領や年間指導計画を基に、単元の学習目標を設定します。

◎ 身近な地域で行われているごみの処理と利用に関心を持ち、意欲をもって見学や調査をして、これらの事業が人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることに気付くとともに、住みよいくらしに向けて進んで協力できるようにする。

観点別目標 年間指導計画や教科書等の内容を評価の観点別に吟味し、目標をとらえ直します。

評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
単元の観点別目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中のごみ処理の様子に関心を持ち、対策や事業について、意欲的に調べようとする。 ○身近な環境に目を向け、環境を守るため 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ処理が組織的・計画的に進められることによって、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを考えることができる。 ○ごみの処理や再利用のためのしくみや努力が分かり、自分 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみ処理の様子を見学したり働く人々から聞き取り調査をしたりすることができる。 ○調査の資料や結果を活用して、思考・判断の材料とするこ 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人々の健康な生活を守るために、ごみの始末と再利用が組織的・計画的に行われていることが分かる。 ○ごみ処理のうつりかわり

「重点課題への取組」等の項目を設定することにより、課題解決への取組が具体的になるようにします。

評価の観点は、文部科学省や国立教育政策研究所などの資料を参考にしましょう。

重点課題への取組

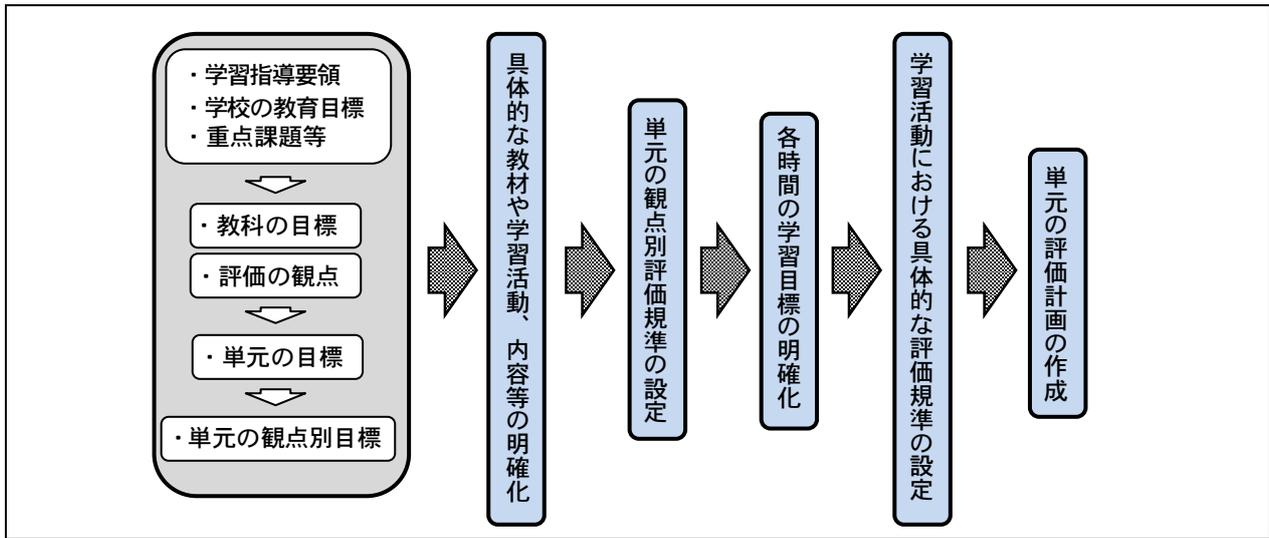
(1) 「基礎的・基本的な知識・技能の定着」のための手立て

- 取材メモや資料から必要な情報を選び、関連付けながらまとめさせる。
- 算数の学習との関連を図り、調べた内容を表やグラフで表現させる。
-

(3) 評価規準を設定しよう

目標がどの程度まで達成されたかを評価するために、単元の観点別評価規準及び学習活動における具体的な評価規準を示さなくてはならない。

【具体的な評価規準の作成手順】



【具体的な評価規準作成の例】

【B量と測定 5年算数「平行四辺形と三角形の面積」 10時間】

単元の目標から順に見ながら、想定される学習内容・活動と関連付けて文章化しましょう。



観点別目標を基に、学習内容や教材、つきたい力等を関連付け、評価規準を設定します。

単位時間の学習活動を想定し、観点別評価規準を基に具体的な評価内容を考え、「おおむね満足できる」状況を規準として設定します。

単元の目標	◎平行四辺形、三角形の面積の求め方を理解し、それらの面積を求めることができる。また、その他の図形の面積についても、既習の図形の面積の求め方を基に考えて、求めることができる。			
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
観点別目標	三角形、平行四辺形の面積にかかわる性質や関係などに……気付き進んで活用しようとする。	三角形、平行四辺形の面積の求め方を考える算数的活動を通して……発展的、統合的に考えたりする。	三角形、平行四辺形の面積を求めたり、それらを活用したりすることができる。	面積の大きさについての感覚を豊かにするとともに、三角形、平行四辺形の面積の求め方を理解している。
観点別評価規準	○既習の正方形、長方形の面積の求め方に帰着させて考えることで、三角形、平行四辺形の面積を求めることができることによさに気付く。	○既習の求積可能な図形の面積の求め方を基にして、三角形、平行四辺形の面積の求め方や公式を考える。 ○三角形、平行四辺形以外の色々な図形についても、	○三角形、平行四辺形の面積を、公式を用いて求めることができる。 ○三角形、平行四辺形の面積の公式を、必要に応じて用いることができる。	○必要な部分の長さを測ることによって、三角形、平行四辺形の面積が計算で求められることを理解している。 ○三角形、平行四辺形について……
学習活動における具体的な評価規準	<p>第①時</p> 平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連付けて求めようとする。 <p>第③時</p> 高さを表す垂線の足が平行四辺形の外にある場合も、工夫して…… <p>第⑤時</p> 三角形の面積を既習の図形の面積と……	<p>第①時</p> 長方形の面積の求め方に帰着して考える。 <p>第②時</p> 等積変形した長方形の縦と横の長さに着目して公式を考える。 <p>第④時</p> 2つの数量の関係を、□や△を…… <p>第⑤時</p> 倍積変形して平行四辺形に……	<p>第③時</p> 高さが平行四辺形外にあっても、面積の公式を用いて面積を求めることができる。 <p>第⑦時</p> 高さが三角形の外にあっても、面積の公式を用いて面積を求めることができる。 <p>第⑧～⑩時</p> 色々な図形の面積を求めるときに、既習の面積……	<p>第②時</p> 平行四辺形の面積の求め方を理解している。 <p>第③時</p> 高さが平行四辺形外にあっても、面積の公式…… <p>第⑥時</p> 三角形の面積の求め方を理解している。 <p>第⑧～⑩時</p> 基本的な学習内容について……

(4) 単元の指導計画を考えよう

目標から評価、重点課題、学習活動の全体を関連付けて、各時間が見通せるような単元の指導計画として構成する。

【単元の指導計画 例 (小4 理科)】

単元名 変身する水を調べよう (10時間扱い)

次	時	主な学習活動	支援 (◎) 評価 (☆)	重点課題	
				言語活動 (●)	基礎的・基本的な知識・技能
一次	2	○2枚の写真を見て、水の状態変化に疑問をもつ。 ・水の状態変化に、温度が関係していることを予想し、話し合う。	◎できるだけ日常での経験を引き出し、学習への興味関心を高めるようにする。 ◎水の状態変化に温度が関係していることを、意見の中から引き出すようにする。	●予想の根拠をあげて説明させる。	支援や評価だけでなく、重点課題への取組の内容や手立ての項目を入れましょう。
		水と氷は、温度によって状態が変化するのだろうか。 ○水の状態変化について話し合い、疑問や調べたいことを見つけ、実験の方法を考える。 ・疑問や調べたいことをノートに書く。 ・実験方法を考える。 《実験1》 ・ビーカーに氷と食塩を混ぜて入れ、水を入れた試験管を冷やし、中の水の様子と温度の変化を観察する。	☆水の状態変化について、疑問に思ったことや不思議に思ったことをノートに書くことができる。[関心・意欲・態度] ◎実験方法を工夫できない場合は、教科書を参考にさせる。		
二次	3	地面にしみ込んだ水も、空気中へ出ていったのだろうか。 ○予想を基に実験方法を考える。 《実験5》 ・地面に透明な入れ物をふせて置き、入れ物の中の様子を観察する。 ・実験結果から水の蒸発についてまとめる。	◎日常の現象に目を向けさせて、それと結び付けて予想させる。 ☆容器の水が減ることや容器の内側に水滴がつくことから、水が蒸発していることを推論し、実験ノートにまとめることができる。[科学的な思考・表現]	●観察の結果を「水蒸気」「蒸発」などの用語を使い、予想と関係付けて記述させる。	この学習活動で具体的に何をさせて、どのような知識・技能や思考力・表現力などの能力を身に付けさせるのか、明確にしましょう。
		○日常生活の中での蒸発・乾燥について、実験結果と結び付けながら考え、まとめるをする。	◎実験結果から分かったことを、日常生活の出来事と結び付けられるようにする。		

具体的な学習活動を想定して、時間ごとの授業がイメージできるように書きましょう。



具体的な評価規準を基に、評価内容と方法をセットにして書きましょう。

●実験の結果について、グラフから読み取った内容を基に、説明させる。

この学習活動で具体的に何をさせて、どのような知識・技能や思考力・表現力などの能力を身に付けさせるのか、明確にしましょう。

学習活動と評価内容、重点課題への取組など、総合的な関連を図り、目標が達成されるように考えましょう。

年間指導計画から単元の指導計画までの、基本的な見方や考え方、作成方法を十分に理解し、日々の授業へとつなげられるようにすることが大切です。



3 指導案を書こう

児童生徒に何をどう学ばせていくのかという意図を明確にした指導案を書くことが大切である。指導案を書くことで、授業の全体像が明確になり、意図的な指導ができるようになる。

児童生徒や教師の具体的な動きがイメージできるように書きましょう。



(1) 本時の展開を考えよう

単元の指導計画に基づき、本時の目標等を明確にした上で展開を考えることが重要である。

【本時の展開 例 (小3 理科)】

目標 学習活動における具体的な評価規準を基に、本時の目標を設定しましょう。

○強い風と弱い風を当てた時の車の動く様子を比べ、その違いをとらえることができる。

○風の働きについて調べたことを表などに表すことができる。

重点課題 重点課題への取組について、本時の具体的な活動内容を考えましょう。

※実験の記録を事実に基づいて分かりやすく記入する。(言語活動の充実)

展開

時配 (分)	主な学習活動	教師の働きかけ (○), 評価 (☆), 重点課題 (※)	資料
5	1 本時のめあてをつかむ ○前時で車を動かして気付いたことを発表する。 ○気付いたことを基に調べてみたいことを考える。	○前時の記録を振り返りながら発表させる。	・前時の掲示物
	あてる風の強さによって、車の走るようすがどのようにかわるのかしらべてみよう。		ワークシートやプリント、掲示資料等の準備するものを書きましよう。
15	2 予想する ・風が強いときほど遠くまで走るだろう。 ・風が弱いとゆっくりと走るだろう。 ・強い風するとき、帽子が飛ばされたので、車も勢いよく走るだろう。 3 実験をする ・弱い風するとき 軽くおされる感じがする。 3m走った。 ・強い風するとき 感じがする。 った。 考察する なった」	○なぜそうなると思うのか、体験などと結び付けて考えさせる。 ○実験の注意事項を掲示し、確認させる。 ・送風機の向き、位置をかえない ・スタートの位置は同じにする ・距離の測定は目盛りの近いほうを読む ○結果は表に記録させる。 ※表から分かることを、事実と発見、考えたことに分けて記述させる。 ○書いたことを基に、グループ内で発表し合い、検討させる。 ☆強い風と弱い風を当てたときの違いを考え、発言したり記録したりできる。(発表、ノート)	・送風機

児童生徒の実態と活動内容を具体的にイメージして、どのくらいの時間が必要かを予想し、適切な時間配分を考えましょう。

学習課題には次のような書き方があります。

- ・思考を促す場合
「なぜ…だろうか」
- ・作品をつくるのが目標の場合
「…をつくらう」
- ・学習意欲を高めようとする場合
「…のひみつを探そう」
- ・観察、実験で、仮説を検証する場合
「(…をして)…を確かめよう」
- ・技能の達成を促す場合
「(…をして)…できるようにしよう」

重点課題での取組を位置付けましよう。

評価の方法を具体的に書きましよう。

(2) 自分スタイルの略案を書いてみよう

日常の授業で、形式を整えた指導案を書くことは難しい。自分の書きやすい形でも効果的である。

① 板書計画を中心にした略案

板書計画に、留意点、支援の手立て、時間配分、注意事項などを書き込むことで、授業の展開を視覚的にとらえることができる。

【板書を中心にした略案 例 (小3 理科)】

10/9 (金)

〈じゅんぶするもの〉

- ・送風機
- ・風で走る車

〈実験するときの注意〉

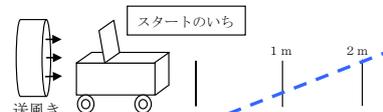
- 送風機のいちや向きを変えない。
- スタートのいちを同じにして手でおさえ、風が出てから放してスタートする。
- きよりははかるときは、目の近いほうを読む。

※実験の注意事項を確認し、黒板の左端に掲示しておく。

⊕ 風の強さをかえると、車の走るきよりはかわるのだろうか。

⊖ ・風が強いときは車の走るきよりは長く、風が弱いとき車の走るきよりは短い。
・風が強いときは速くたくさん走る。 風が弱いときはゆっくりと少しだけ走る。

⊕ 送風機を使って、強い風、弱い風を出して車に当てる。
強い風、弱い風それぞれ3回ずつ調べて、けっかを記ろくする。



スタートのいち

	弱い風するとき	強い風するとき
1回目	3m	6m
2回目	3m	7m
3回目	4m	6m

⊕ 強い風を当てたときのほうが弱い風を当てたときより車は長いきよりを走る。

※学習問題は児童の言葉で表現する。

※送風機の使い方を教えるとともに、注意事項の確認をする。

※実験を行う場所として、多目的ホールの用意をしておく。

〈気づいたこと〉

- ・強い風ときは速く走った。
- ・強い風ときは車を手でおさえていると大きな力を感じた。
- ・強い風ときは風の力もすごい。

※実験の結果に基づいて話し合うように、例を示して指導する。

※学習問題を意識させながら、児童の言葉でまとめさせるようにする。

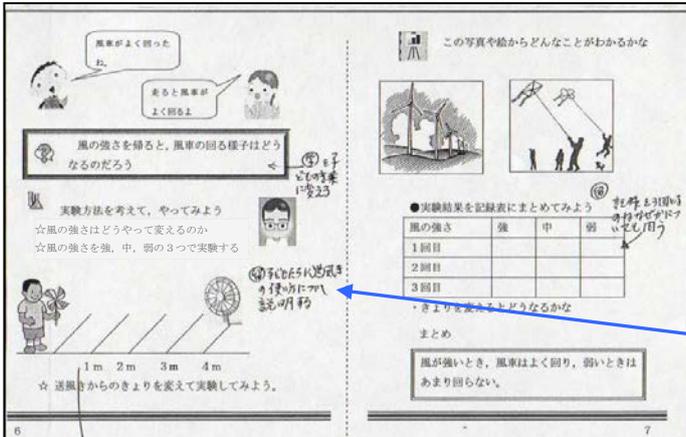
板書計画に留意点や時間配分、実験の注意事項、支援の具体的な手立てなどを書き込んでいきましょう。

気付いたことを後から付け加えて記入しましょう。

② 教科書に書き込みを入れた略案

教科書に沿って授業を展開することが多い。教科書に書き込みながら、同時に教材研究を進める方法は手軽に毎日続けることができる。

【教科書に書き込みを入れた略案 例 (小3 理科)】



風の強さを弱くすると、風車の回る様子はどうなるだろうか

実験方法を考えて、やってみよう

☆風の強さはどうやって変えるのか

☆風の強さを強、中、弱の3つで実験する

風の強さ	強	中	弱
1回目			
2回目			
3回目			

まとめ

風が強いとき、風車はよく回り、弱いときはあまり回らない。

〈本時の目標〉

- 強い風、弱い風を働かせる時の現象を比べて、何違いを考えることができる。
- 風の強さについて調べたことを表で表すことができる。

〈言語活動充実のための手立て〉

- ・実験記録を整理して表で表す時にフロンシートを使い指導する。
- ・実験記録に基づき話し合う。
- ・(お録)の注意事項を注意して実施する。

〈授業の手立て〉

- ① 風の強さを変えて、風車回転方向と回転速さを観察する。
- ② 強い風、弱い風を働かせる時の現象を比べて、何違いを考えることができる。
- ③ の予想 (お録) の目的に児童が考えた手立て、実験記録の留意点を話し合う。児童の発表を促す。

※学習問題にそって取り組む。

※新しい疑問や気づいたことをお録に、次の学習につなげる。

本時の目標、学習問題、予想、実験方法、まとめ、重点課題等にかかわる手立てなどを書きましょう。

つまずきやすいところ、つまずきへの手立てを書きましょう。

実験方法とその注意点などを書きましょう。

全体的な留意点や工夫、思い付いたことなどをメモしておきましょう。

自分だけの指導解説書が完成します。



④書き込みをする教科書は自分で用意しましょう。

4 授業に生きる教材研究をしよう

教材とは、学習活動を成立させ、目標を達成させるための材料である。従って教材研究では、単に素材そのものの価値の理解だけでなく、「目標達成のために教材をどのように使って、どのように学習活動を展開していくか」など、授業展開の構想までを含めて行うことが重要である。

(1) 教科書を見直そう

教科書は、児童生徒の学習の手がかり、手引きである。学習内容を提供するために様々な観点から検討され、つくられている。教師は教材としての価値や作成者の意図をしっかりと理解・解釈し、児童生徒の実態等を踏まえて授業を構想することが大切である。

【教科書の見方 例（小3 算数）】

1 1こ21円のみかんを13こ買います。
何円になりますか

☆計算のしかた

式

10こ分	$21 \times 10 =$	<input type="text"/>
3こ分	$21 \times 3 =$	<input type="text"/>
あわせて		<input type="text"/> 円

☆ひっ算のしかた

21		
×13		
63	21×3	①
21	21×10	②
273	$63 + 210$	③

練習問題

21×32 12×42 11×67

- 67 -

「使われている素材の意味を読み取る」

この問題文では、みかんを素材にしています。他の教科書でも果物や色紙、折り紙などを使っています。このように児童生徒にとって身近な素材を使うことにより、日常の事象と結び付けて考えたり具体的な操作を通して理解しやすくしたりしています。

「数値などの意味を読み取る」

ここでは、21円、13こという数が使われています。例えば、「13こ」を「12こ」に変更すると、 21×12 の計算になります。これでは、「 $21 \times 4 \times 3$ 」という考え方も問題が解決するため、既習の2桁×1桁の計算になってしまいます。ですから九九に分解できない素数の13が使われています。

「考えるためのヒントや手がかり、例などがないか読み取る」

ここでは、□の中に入れる数値を考えさせることによって、計算の方法が分かるようになっています。

「代表的な考えや解き方を読み取る」

教科書の考え方をどう理解させるか、それ以外の解き方などをどう生かすかが、重要になってきます。

「教えること、考えさせることを見極める」

ここでは、筆算という用語と筆算の書き方は教師が教えることであり、計算の仕方と意味は児童に考えさせることです。

「学習のステップを読み取る」

ここでは、練習問題の数値も繰り上がりのない問題になっています。次の段階では、繰り上がりのあるものを扱っています。

「前時、次時とのつながりを見る」

前時の数値を見ると、 4×30 や 31×20 のように「×何十」を扱っています。次時では、 25×29 、さらに 82×64 のように繰り上がりのある計算を扱っており、段階（系統）を踏まえたものになっています。

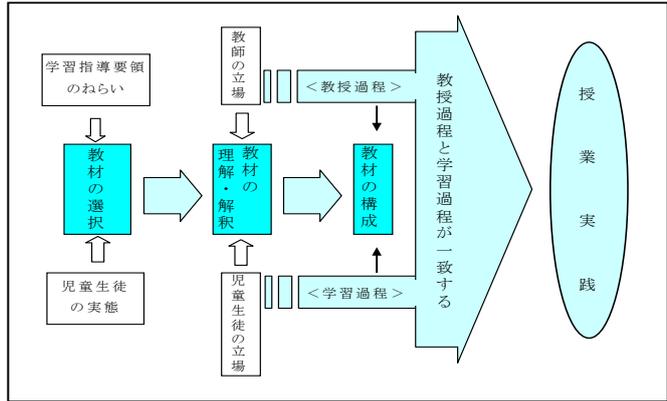
他社の教科書を見て、内容や構成の仕方を比較することも、教材研究の一手段です。



(2) 教材をつくってみよう

効果的に目標が達成できる教材を、教師自ら開発することも大切である。ただし、教科書以上に意義深いものにする必要がある。

【教材づくりのイメージ図】



【教材づくりの手順 例】

素材を集める

「教材化の価値がありそうだ」「おもしろそうだ」と思えるものを見つける。

- 地域の施設・設備に足を運ぶ。
- 地域の人を尋ねる，行事に参加する。
- 文献調査や現地調査をする。
- 他の教員の実践を見聞きする。
- 日常の事象からヒントを得る。

- 目標達成ができる内容である。
- 児童生徒の日常生活との関連からとらえる。
 - ・日常に近い素材→親近感や真実味をもたせる。
 - ・日常から遠い素材→疑問，驚き，不思議，好奇心などをもたせる。
- 児童生徒の内面に響くものである。
 - ・どのような感性・情緒が育まれるのか。
- 児童生徒の実態に応じている。
- 地域との連携の視点で考える。
 - ・総合的な学習の時間の「職場体験」など，地域との連携・協力をどのように行うか。



素材を選ぶ

選んだ素材の価値を理解・解釈する。

- 素材のもつ価値を単元目標や観点別目標に照らし合わせ，授業で扱う内容と素材の関連を調べる。
- どの部分で何を学習させられるか考える。
- 系統性に対する理解を深める。
- 文献調査，現地調査，予備実験などを行い，素材に対する多様な見方や考え方ができるようにする。
- 児童生徒のつまずきやすい「危険箇所」などを明らかにする。
- 日常生活への連続性，発展性を考える。

素材を授業に位置付ける

授業を構想し，展開するための準備をする。

- 素材の提示の仕方を考え，準備する。
 - ・読み物，写真，動画，実物，実演，講話 など
- 素材を生かす発問と学習過程を考える。

II 授業展開力 ☆分かる・できる授業をしよう

1 授業のための雰囲気づくりをしよう

教師の話し方や態度、教室環境は児童生徒の一番身近なものであり、学習意欲や態度の形成に大きな影響を与える。そのため、日常の配慮が必要である。

(1) 児童生徒の立場に立った話し方を心がけよう

- 淀みなく、最後の言葉まではっきりと話す。
- 短く簡潔に、順序よく話す。
- 最後の行動まで分かるように話す。
- 具体例・具体物などを示しながら分かりやすく話す。
- 適切な間をとりながら話す。
- 豊かな表情や動作を加えて話す。
- すぐに言い直したり付け加えたりしないように話す。
- 視線を交わし表情を確認ながら話す。

自分自身の話し方は、客観的に聞いてみないと分からないものです。日常の授業を録音するなどして、自分の話し方を見直しましょう。



(2) 話しやすい雰囲気や環境をつくらう

- 生徒指導の機能を生かす言葉や態度で発表しやすい雰囲気をつくる。
(例)・「なるほど、〇〇さんはそう考えたんですね。」「よいところに気付きましたね。」「一所懸命がんばって発表しました。」「大丈夫、待ちますよ。」などの言葉。
 - ・傾聴のうなずきや相づちなどの動作。
- 望ましい話合いの態度を身に付けさせる。
(例)・人の意見は最後まで聞く。
 - ・相手を見て話したり聞いたりする。
 - ・相手の意見を尊重し、一方的な否定をしない。
 - ・分からないことは積極的に質問し合う。
 - ・建設的な態度で協力して話し合う。
- 学習を深めるための発表の仕方を身に付けさせる。
(例)「賛成です。わけは〇〇だからです。」「ぼくの意見は少し違います。〇〇だと思います。わけは〇〇だからです。」「〇〇さんの意見に付け足します。」「ほかにもあります。」「〇〇さんの意見について、質問があります。」

(3) 教室掲示を整えよう

- かけ算九九の表や漢字表、観察、実験、見学の記録の仕方、レポートのまとめ方など、常に掲示して定着を図る資料を工夫する。
- 各時期の学習の流れや内容のポイントなど、授業の「見通し」や「振り返り」に役立つ資料を工夫する。
- 作品には、次の学習につながるよう、努力を認めたり励ましたりする言葉を添える。
(例)「〇〇について、よく調べました。□□について、もう少し調べましょう。」「〇〇に対する自分の考えがよく書かれていてすばらしい。」「〇〇について、よいところに気付きました。」

〈留意点〉

- 文字の大きさ、正確さ、筆順、色のコントラストに留意する。
- 内容の配列、囲み線、傍線などを工夫して分かりやすくする。
- 絵、図、表を効果的に使って分かりやすくする。
- 情報量や色数を多くし過ぎない。
- 教室前面の掲示物や黒板に貼るものは、児童生徒によっては学習の妨げになるので十分に配慮する。

教室環境は、児童生徒の学習の集中力や態度形成に大きな影響を与えます。

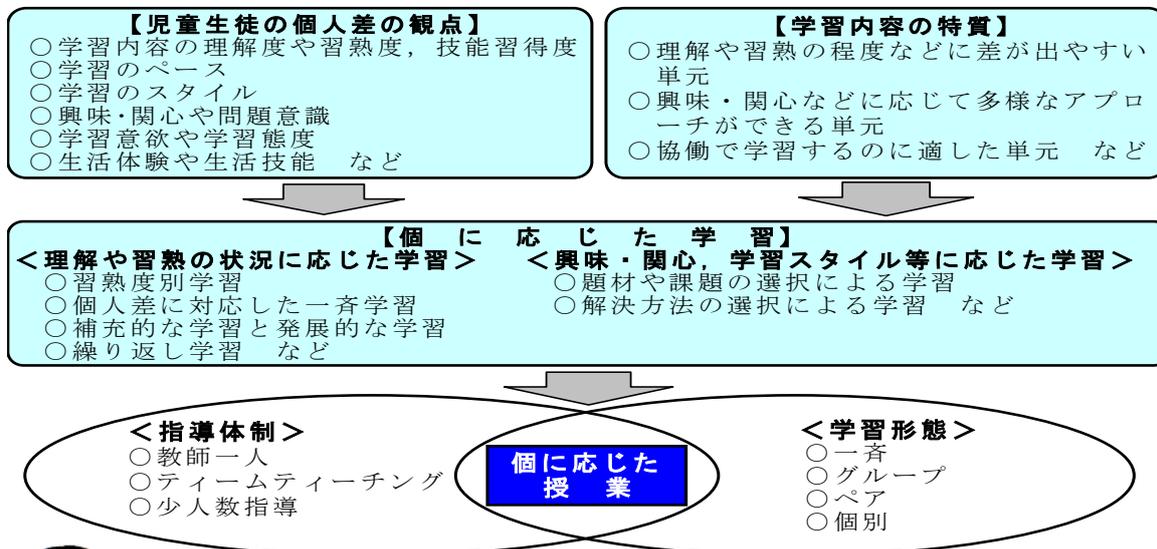
黒板やその周辺、机・いすなどの整理整頓にも心がけましょう。



2 授業展開を工夫しよう

(1) 個に応じた授業を工夫しよう

児童生徒はそれぞれ能力・適性、興味・関心等が異なっており、学習への取り組み方に違いがある。そのため、学習内容の特質も考慮しつつ、実態に応じた適切な指導方法を工夫していくことが必要である。



どのような指導体制の下でも個に応じた授業に努めることが大切です。教師一人による一斉学習を進める場合でも、個に応じた手立てを工夫しましょう。

【学習形態の例】

小単元 <4年算数> 「広さを調べよう」	学習活動	学習形態 例1 ■一斉学習中心 ○単元末に診断を行い定着を図る。	学習形態 例2 ■習熟度別少人数指導 ○小刻みに診断を行い定着を図る。	学習形態 例3 ■課題別集団・TT ○体験的な学習等の場面で課題を選択する。
1 面積	広さ比べと単位面積による数値化 1cm ² の理解と、面積の意味理解 長方形、正方形の面積の求め方の公式化 面積の公式を用いた求積	一斉	一斉	一斉
(復習)	求積の定着	(習熟・補充)	診断・選択 補充問題 発展問題	(習熟・補充)
2 大きな面積	「m ² 」や「km ² 」の単位 単位の利用 身近な物の面積の測定 「a」や「ha」の単位		一斉	選択 課題A 課題B
(復習)	単位の定着	(習熟・補充)	診断・選択 補充問題 発展問題	一斉 (習熟・補充)
3 面積の求め方のくふう	かいだん型の求積 他の図形の求積		一斉	
(復習)	練習問題	診断・選択 補充問題 発展問題	診断・選択 はりきりコース しっかりコース	診断・選択 補充問題 発展問題

【個に応じた手立て】

- 必要に応じて自由に選択できる課題解決のための資料・情報などの準備。
- つまづきやすい学習内容に対応するヒントカードなどの工夫。
- 個人差に対応した複数コースの練習問題の準備。
- 「何が分かって、何が分からないか」を明確にする自己評価シートの工夫。
- グループ学習の場の設定。
- 評価の観点を明確にした机間指導。 など

【少人数指導やT・Tの留意点】

- 少人数指導の実施内容や意図などを保護者に説明し理解を得ておく。
- 学習コース等の選択にあたっては、ガイダンスを丁寧に行い、適切な助言をする。
- 少人数指導のグループ構成が固定化しないように配慮したり、学習コースのネーミングを配慮するなど、劣等感や優越感が生じないように努める。
- 教師間の打合せ時間を確保し、効果的な指導方法や評価方法、児童生徒の実態等について共通理解を図る。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習を工夫しよう

① 発達や学年の段階に応じた指導をする

- 小学校低学年から中学年まで
「読み・書き・計算」の能力を育成するために、体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、反復学習などの繰り返し学習を工夫する。
- 小学校中学年から高学年にかけて以降
体験と理論の往復による概念や方法の獲得、及び討論・観察・実験による思考や理解を重視するといった指導の工夫をする。

② 授業を三つの場でとらえる

習得と活用を図る学習を進める上で、授業を三つの場でとらえるのも有効である。

主として習得を図る学習は、「教える場」と「考えさせる場」とする。教えるべきことを明確にしてしっかりと教え、教えたことの定着を図るために考えさせるなど、両者を関連付けながら確実な習得を図ることが重要である。

主として活用を図る学習は、「考えを深める場」とする。習得した知識・技能を活用して課題に取り組み、討論などにより考えを深める学習の充実が重要である。

授業の三つの場	指導内容の例 (小1 国語)	指導上の留意点
教える場 基礎的・基本的な知識・技能を明確にして、分かりやすく教える場	主として習得を図る ○絵を用いて「5W1H」を組み合わせた文の作り方を教える。 ・提示した絵から「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」にあたる言葉を探させて教える。 ・絵の場景が読み手に伝わるように表現方法を教える。	・教師主導で教える場合も、児童生徒と対話したり発言や挙手をさせたりして言語活動を充実し、理解の状況を把握しながら進める。 ・教材、教具、操作活動などを工夫し、分かりやすく教える。
考えさせる場 教えた知識・技能を用いて、課題に取り組みさせる場	主として習得を図る ○異なる絵で、「5W1H」を使った文を考えさせる。 ・5W1Hにあたる言葉と場景を表す文を考えさせて書かせる。 ・どのように考えて文を作ったのか説明させる。	・絵を変えて、教師の教えたことが理解できているかを確認できるような学習活動を工夫する。(教えたことを使って書かせる、説明させるなどの言語活動を充実する。)
考えを深める場 習得した知識・技能などを活用して課題に取り組み、話し合いなどにより考えを深める場	主として活用を図る ○「5W1H」で文を作る方法を、他の場面や学習で活用させる。 ・見学や行事で分かったことや伝えたいことなどを文で表現し、伝え合う。また、聞き手・読み手にきちんと伝わる文になっているか、話し合って改善する。	・習得した知識・技能の有用性が感得できる課題に取り組みさせる。 ・互いの考えを伝え合い、改善のための話し合いをするなどして考えを深めさせる。 ・考えを深めさせ、知識・技能を活用する力を育てるため、言語活動を特に充実する。

【三つの場でとらえた授業の例】

＜単元構成＞ 中1理科「大地の変化」（22時間扱い）

小単元名	学習内容	時間
1 火山	①火山はどんな活動をするのか。	2
	②マグマが固まるとどんな岩石になるのだろうか。 ・火山岩と深成岩のつくりの違い ・火山岩と深成岩のでき方の違い ・火成岩の色合とふくまれる鉱物	5
2 地震	③地震とはどのようなものなのか。 ・地震による地面のゆれ方 ・地震の波の伝わり方	2
	④地震の大きさは何で表すのか。	1
	⑤地震によってどんな現象が起こるのか。	1
	⑥日本の地震はどのようなところで起こるのか。	1
3 地層	⑦地層はどのようにしてつくられるか。	1
	⑧地層の観察（地層のつくり、地層の広がり、断層・褶曲）	3
	⑨堆積岩と化石を調べよう。 ・地層をつくる岩石（堆積岩） ・堆積岩や化石から分かること ・地層の年代を示す化石	2
	⑩地層の観察結果から地層のでき方や当時の環境を推定する。	1
4 大地の変動	⑪地震や火山の活動はなぜ起こるのか。	1
	⑫高い山はどのようにしてできるのか。	1
まとめ	総括的な評価をし、補充する。	1

3 地層 ⑦地層はどのようにしてつくられるか。

（学習問題）地層はどのようにしてつくられたのだろうか。

教える場

- ◆風化した泥岩やグランドキャニオンの写真などを提示し、「風化や侵食の作用」に気付かせる。
- ◆「風化」、「侵食」の用語と「風化や侵食の作用」を教える。
- ◆堆積の実験方法を教え、実験させる。

〈実験ア〉 ペットボトルに水、れき、砂、泥を入れ、よく振ってから静置する。
〈実験イ〉 メスリンダーに水を入れ、れき、砂、泥を混ぜたものを上から落とす。

- ◆実験結果から、粒のしずみ方や積もり方に気付かせ教える。

考えさせる場

- ◆実験結果を自然界に当てはめ、土砂の堆積について考えさせる。
- ◆「風化や侵食の作用」と土砂の「堆積」を連続的にとらえて考えさせる。
- ◆地層は、どのような場所に、どのようにして堆積するかを考えさせ、説明させる。

3 地層 ⑩地層の観察結果から地層のでき方や当時の環境を推定する。

＜活用させる知識・技能など＞

- ①火山の大規模噴火により、火山灰や軽石が吹き上げられ海底や陸地に堆積する。
- ②火山灰や軽石、火成岩に含まれている鉱物（セキエイ、チョウ石、クワンモ等）とその特徴。
- ⑦風化や侵食で岩石が、れき、砂、泥などになり、流水に運ばれ、海底などに堆積し地層をつくる。
- ⑧地層の観察、スケッチにより調べた特徴。
- ⑨堆積岩のつくりと構成物質（粒の大きさ、形、集まり方など）。
- ⑨堆積岩や化石からわかること（示相化石、示準化石）。

考えを深める場

（学習問題）以前に観察した地層は、いつ頃、どのような環境の下で堆積したのだろうか。

- ◆習得した既習事項を活用して、地域の地層の観察記録から過去の堆積環境や地層のでき方を推定する。
- ◆各自の考えを、筋道立てて論述する。
- ◆話し合いや文献・資料等により意見を評価し、考えを修正する。
- ◆課題に対する結論をまとめる。

3 授業スキルを高めよう

授業は、「教師の働きかけ」と「児童生徒の活動」が有機的に関連しながら展開する。このため、授業を効果的に展開できるような、授業スキルの向上が求められる。

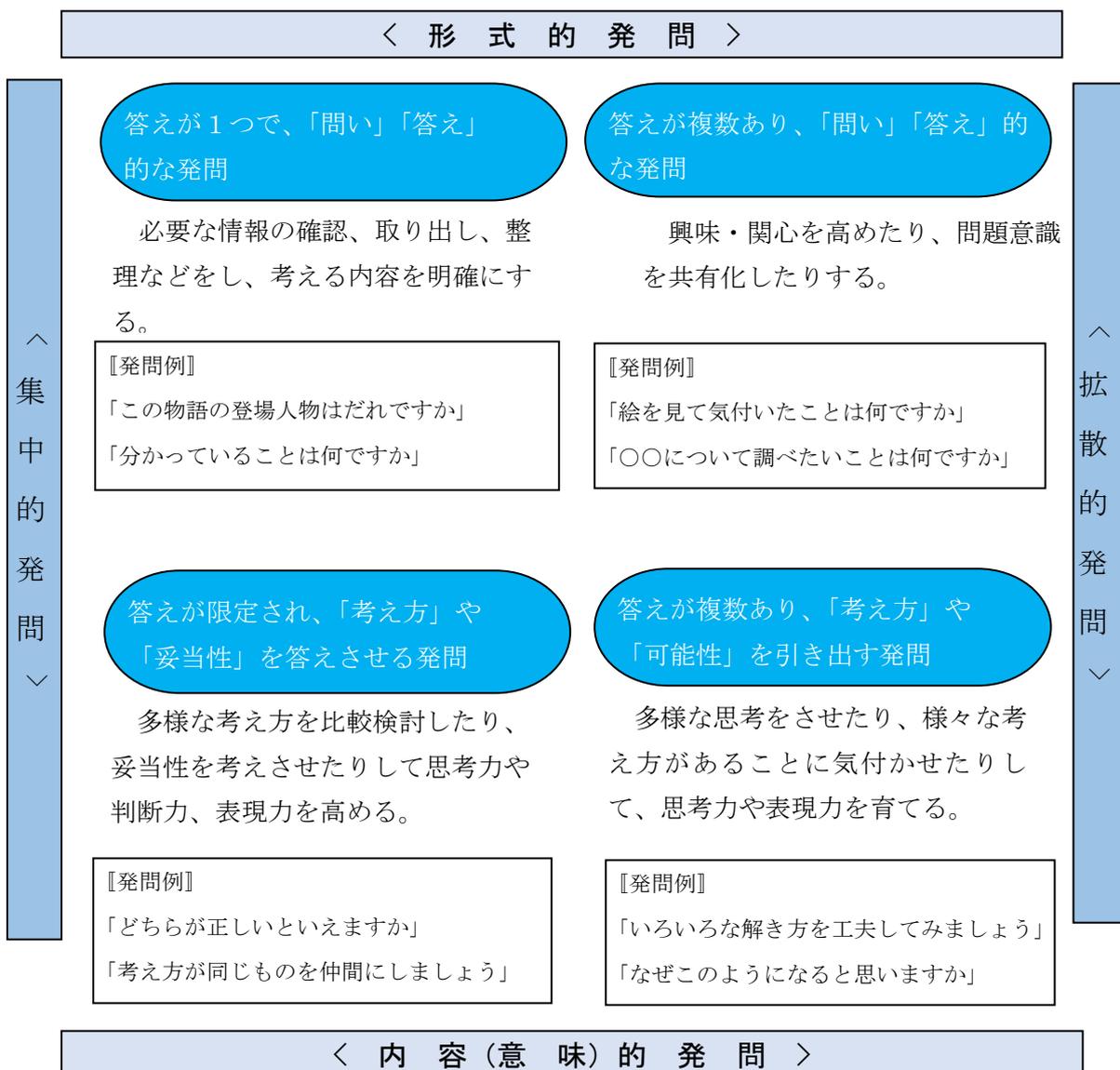
【1 単位時間の授業展開のイメージ図】



(1) 発問の働きを考えよう

発問は、授業のねらいに向けて児童生徒の思考を促す原動力となる。発問の働きを自覚し、使い分けることにより、効果的に授業を組み立てることができるようになる。

【発問の分類】



(2) 作業指示を入れて発問をしよう

発問に続けて、具体的な作業指示をすることにより、児童生徒は目的意識をもった活動を行うことができる。

【作業指示を入れた発問の例】

「絵を見て気付いたことをノートに五つ書きなさい。」

「この物語の登場人物はだれですか、発表しましょう。」

「いろいろな解き方を工夫してみましょう、自分の考えをノートに書きなさい。」

「どちらが正しいといえますか、理由をあげながら友達と話し合いましょう。」

制限時間や目標の数値を示すと、より具体的になり、集中した活動につながります。
例えば、「5分で考えましょう」「40字以内で書きましょう」など数字を入れて、作業指示をしましょう。



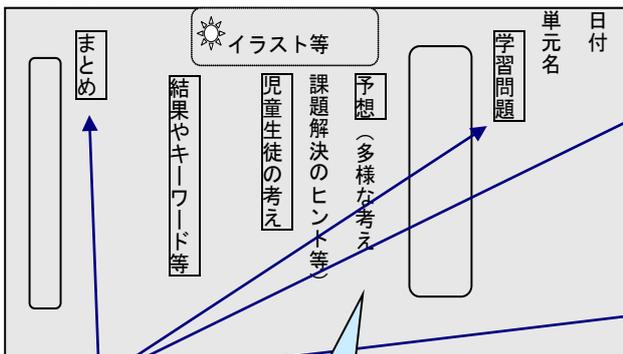
(3) 分かりやすい板書を工夫しよう

授業の経過や児童生徒の思考の流れが分かるように、何を、いつ、黒板のどの位置に、どのように書くかを決めて授業にのぞむことが必要である。

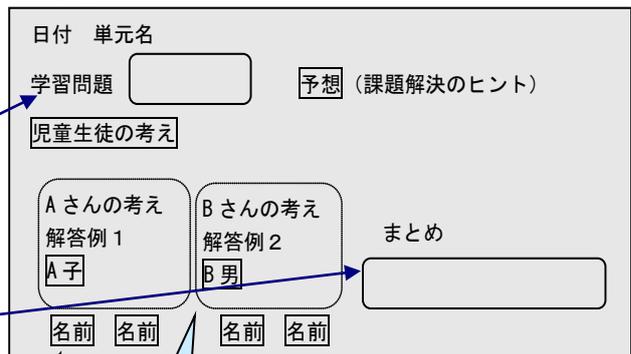
【板書をするときの留意点】

- 最後部や最前列の両端に座る児童生徒から見える位置かどうかを考えて書く。
- 思考の流れが分かるように、児童生徒の意見などは必要に応じて分類して位置を分けたり、まとめたりして書く。
- 正しい筆順で書き、文字の大きさや書くスピードを配慮する。
- 目的別に色チョークを使い分けるとともに、見やすい色にする。
- 改行するときは単語や文節を分断しないようにする。

(縦書き)



(横書き)



【板書の例】

「学習問題」と「まとめ」の外枠は、色チョークを決めて、分かりやすくしましょう。

「予想」や「児童生徒の考え」は、画用紙や短冊黒板に書かせて、貼ってもよいでしょう。

一人一人の名前を書いたマグネットシートを用意して、同じ考えのところに貼らせるなどすると、学習意欲が高まります。

児童生徒に直接書かせる時、児童生徒の参加型の板書になります。

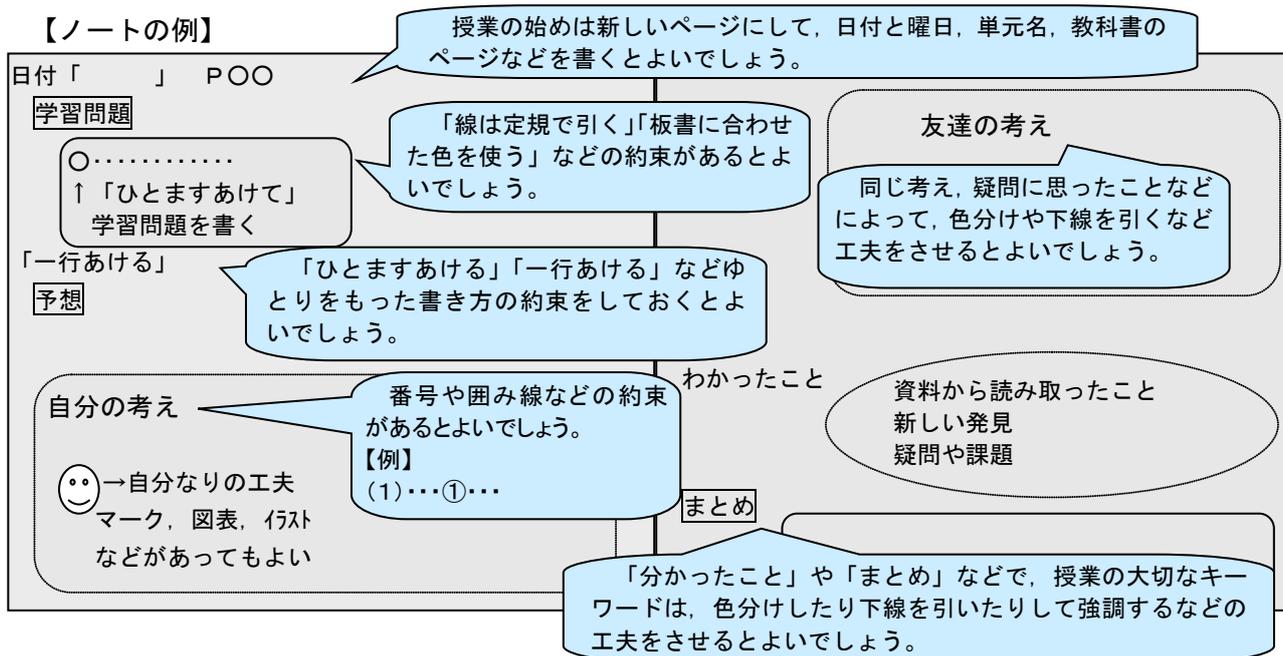
キーワードや重要語句は、色を決めたり、下線を引いたりするなどの工夫をするとよいでしょう。



(4) 学習の足跡が分かるノートにしよう

思考を広げ、必要なことが書いてあり、見て分かるノート、児童生徒が読み直したくなるノートをつくり上げるように、指導をすることが大切である。

【ノートの例】



【ノート指導のチェックポイント】

- 基本的な約束を決めて、その指導を繰り返し徹底している。
- 児童生徒の創意工夫を生かすようにページにゆとりをもたせている。
- 思考の過程が見えるように、誤答や自分の考えを消さずに残す指導をしている。
- 書く時間を保障している。
- 丁寧で分かりやすいノートや自分なりの工夫をしているノートを紹介している。

(5) 授業を活性化させる指名を工夫しよう

教師の指名の仕方によっては、授業への参加意欲や態度、授業の流れが変わってくる。授業の場面に応じた方法を工夫したい。

【指名の仕方とポイント】

- 「発問→指示→児童生徒の思考→指名」を一つの流れととらえる。
- 「挙手させてから指名」と「挙手させずに指名」を意図的に使い分け、授業を組み立てる。
- 指名は、「少数意見から多数意見へ」や「易しい考えから難しい考えへ」など、意図的に行う。
- 「既習事項の確認」や「まとめ」など、場面によって、列指名、班指名、計画的指名、挙手指名、起立指名、指名なし発言、などを使い分ける。
- 指名後の発言には、うなずきや言葉かけにより、承認や励まし、賞賛をする。

Ⅲ 実態把握力 ☆子どもたちの姿を正しく理解しよう

1 実態把握の見通しをもとう

実態把握の時期に応じて、その目的や内容が異なる。そこで、時期に応じた把握の方法を工夫、選択し、把握したことを指導に効果的に反映できるようにする。

【時期に応じた実態把握の目的、内容、方法の例】

時期	目的	内容	方法
学習前	・指導計画の作成 ・手立ての立案	<診断的評価> ・既習事項の定着，意欲や経験の有無等から把握	・診断的評価のための事前調査の実施 ・これまでの活動の様子分析 ・誤答分析 ・集団と個の両面からの把握
学習中	・目標の達成状況の把握 ・指導と評価の一体化	<形成的評価> ・具体的な評価規準を基にした評価	・形成的評価のための小テストの実施 ・表情や行動の観察 ・資料の活用状況やノートの記述の観察 ・丸つけによる評価や励ましなどの声かけ ・実技テストの実施 ・挙手や列指名による確認
学習後	・学び方の改善 ・指導の改善	<総括的評価> ・観点別の評価と達成状況の把握 ・単元全体を通した児童生徒の変容の把握	・総括的評価のための総合問題の実施 ・レポートや作品の観察 ・口頭試問や質疑応答の実施 ・児童生徒の自己評価，相互評価の実施と整理 ・新たな課題への取組状況の観察

2 学習前に実態を把握しよう

学習前の実態調査は、具体的な指導計画の作成や手立ての立案に生かす。

【学習前の実態把握の手順 例（小5 算数）】

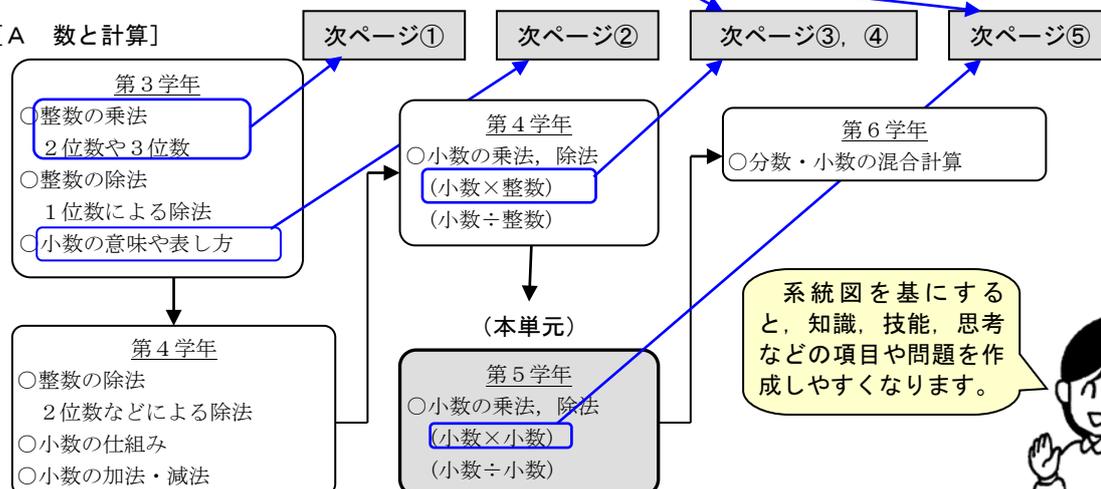
事前調査の観点の設定と問題の作成

- (1) 既習事項の定着度や意欲，生活経験，重点課題とのかかわり，未習事項についての知識，理解，技能，関心等について観点を設定する。
- (2) 学習指導要領や単元の系統性を基に，次ページの表中①～⑤の内容に基づき問題を作成する。

小学校学習指導要領 第3節 算数 【第5学年】 2 内容

- (3) 小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め，それらを用いることができるようにする。
- ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
- イ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。また，余りの……。
- ウ 小数の乗法及び除法についても，整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解……。

[A 数と計算]



事前調査の分析とまとめ

(3)分析は、「集団の傾向」と「個の状況」とを区別して行う。主に、前者は指導計画作成の際に、後者は個々への指導の手立てを考える際に生かすようにする。

[集団の傾向の把握と分析]

誤答の傾向や原因を探り、指導方針や学習形態などを考えましょう。

観点	本単元にかかわる内容	問題	正答率	誤答例・分析
既習事項	① 2位数×2位数の乗法ができる	67×34 の計算をしなさい	〇〇%	・繰り上がりの計算を誤る(5人) ※繰り上がりの数を書かずに誤る(3人) ※繰り上がりの数を書いたが、 ・一斉指導で計算の手順を確認し、
	② 小数のしくみが分かる	1.26は、0.01を何こ集めた数ですか	〇〇%	・
	③ 小数×整数ができる	7.3×6 の計算をしなさい	〇〇%	
説明する力(言語活動)	④ 計算の考え方を説明できる	7.3×6 の計算の仕方を説明しなさい ・0.1を基にして73×6を計算する仕方 ・7×6と0.3×6を分けて計算する仕方 ・7.3を6回たす仕方 ・タイル図などを用いて説明 ・無答	〇〇% 〇〇% 〇〇% 〇〇% 〇〇%	・0.1を基にした児童が多いたが ・0.1を単位とした見方をもう一度 ・無答の児童に対しては、
未習事項	⑤ 小数×小数ができる	2.3×0.4の計算をしなさい	〇〇%	・未習であるがすでに
		3.7×1.7 の計算をしなさい	〇〇%	・
関心・意欲	教科の学習に対する意欲	算数の勉強は好きですか はい いいえ どちらともいえない	..	・好きと答えた児童が多いが、
	未習に対する興味関心	～をしてみたいですか はい いいえ どちらともいえない	..	・
経験	生活経験の	～をしたことがありますか はい いいえ	..	・～の経験者が予想よりも多く、

重点課題への取組として、既習事項を使って説明できるようにする手立てを考えましょう。

[個の状況の把握と分析]

調査結果と日頃の様子を基にして、特に配慮が必要な児童生徒を把握し、具体的手立てを考えましょう。

氏名	実態					個への配慮事項	評価や変容			
	既習事項									
	① 小数のしくみ	② 2位数×2位数	③ 小数×整数							
1 幕張 良子	○	○	○	○						
2 若葉 健太	○	○	○	○	集中を欠くことが多いので、解き終わった後に予備の問題を用意し					
38 千葉 菜々	○	×	○	×	筆算での繰り上がりを					

実態や配慮事項に加え、評価や変容の欄を設けて一覧表にしておく、指導の効果をとらえるのに役立ちます。



(4)調査の結果は、必要に応じて一覧表や座席表などにまとめる。

3 学習中の実態を把握しよう

具体的な評価規準を基に学習中の実態を把握し、指導の手立てと一体化させていくことが大切である。

(1) 具体的な評価規準を基に評価しよう

1 単位時間の中のどの場面でどのように評価し支援するのか、を明らかにしておく。その際、「関心・意欲・態度」の実態は、授業以外の要因によっても変化しやすいので、評価を多面的、継続的に行うようにする。

【「表現の能力」の評価 例（英語）】

評価規準 ○買い物場面を想定して How many～? How much～? を使った問答ができる。
 (表現) ○1000 以下の数字を英語ではっきり言うことができる。

学習内容と活動	支援(◎), 評価(☆)
グループで活動する ・小道具を用いて、店員や客の役を交代しながら行う。	・列ごとに3人のグループを作らせ、活動させる。(T1) ☆How many～? How much～? に対して数字を用いて答えることができたか。 <T1, T2 で発表内容の観察> ◎答えられない生徒に対しては、教師が先に発音を示し…

本時は「表現の能力」の観点を中心に評価することにしました。

活動の様子、ワークシートの記入状況で評価します。発表することで達成状況を把握します。

T1 と T2 で分担を決めておき、全生徒の評価と指導ができるようにします。



【「関心・意欲・態度」の自己・相互評価 例（英語）】

Class 2 Name 千葉菜々		◎:よくできた ○:できた △:あと一歩											
評価項目	メンバー	自分			幕張良子			若葉健太					
	時	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
相手の英語をしっかりと聞こうとしたか		◎	◎		◎	◎		○	○				
自分のセリブをしっかりと言おうとしたか		○	○		◎	○		○	◎				
小道具などを用いてその場に応じた動作をしようとしたか		△			○			△					
感想・意見											

【記入方法】 ①自分の評価を記入
 ②メンバーが評価を記入
 ③感想・意見を記入

自己評価や相互評価なども取り入れ、多面的な評価を心がけましょう。



(2) 評価結果を児童生徒にフィードバックしよう

授業の目標を達成するための個に応じた指導・助言をすることで、学習効果が上がり自信をもって意欲的に学習に取り組めるようになる。

【授業中のフィードバックの例】

- 口頭でほめる、励ます。
- 机間指導中にノートなどに朱で波線や丸をつける。
- ノート作業や小グループでの話し合いなどでつまづきを発見して、ヒントや助言を与える。
- 振り返りカードなどに朱でコメントなどを書く。
- 自己評価、相互評価で振り返りをさせる。

評価規準をあらかじめ示しておくことで、児童生徒がめあてを意識するようになり、取組が主体的になります。



(3) 評価結果を記録しよう

評価結果が累積されることにより、集団や個々の変化が把握できる。状況に応じて、その場で記録したり授業後にまとめて記録したりして、評価結果の累積をしていく。

結果を記録することは、個々への指導を見直したり、指導の偏りや漏れを防止したりする意味もあります。



【評価結果の記録 例（英語）】

観 点	関心・意欲・態度			表現の能力				
	時	1	2	3	1	2	3	4
評価規準	動作を伴った発表をしようとする。	自分のセリフをはっきり言おうとする。	How many～？ How much～？ 数字を用いて、適切に答えることができる。	Whose～？ とその応答文を..
氏 名								
幕張 良子	○	○	○				○	○
若葉 健太	○	○			○	○	○	
....			○	○	○	○	△	△

[A:○ B:無印 C:△]

4 学習後に実態を把握しよう

学習後には観点別目標の達成状況や単元全体を通じた児童生徒の変容を明らかにする。その状況に応じて、補充的な学習や発展的な学習を行ったり、その後の指導計画づくりに生かしたりする。また、保護者への説明の資料としても活用できる。

(1) 各観点をバランス良く把握しよう

評価の内容が、数値でとらえやすい「知識・理解」などの観点到偏りすぎないように配慮し、数値としてとらえづらい「思考・判断・表現」や「関心・意欲・態度」などの観点についても評価方法を工夫する必要がある。

【「思考・判断・表現」の評価問題のつくり方 例（中3 社会）】

作成の留意点	評価問題	観点別評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を使って考えさせる。 ○実験結果、グラフ、資料などの事実を示して考えさせる。 ○解答は記述式で、考えた過程や理由を書かせる。 ○解説を付けた模範解答を考えておく。 	<p>組 氏名</p> <p>【問題】 下の資料を参考にして、「少子高齢化が進むと社会保障の面でどのような影響があるか。」を説明しなさい。</p> <p>【解答欄】</p>	<p>「社会的な思考・判断・表現」</p> <p><u>国民生活と福祉</u></p> <p>少子高齢化社会など現代社会の特色を踏まえ、財政の面に関して、限られた財源の望ましい配分について多面的・多角的に考察している。</p>

全国学力・学習状況調査のB問題のつくり方も参考になります。



(2) 複数の評価方法を組み合わせて把握しよう

評価の内容により、実技テスト、レポート作成、観察や面接等の方法も取り入れる必要がある。また、それらを組み合わせて多角的に評価することで、児童生徒の変容もより明らかになる。

IV 授業改善力 ☆授業を見直して改善しよう

1 授業を見直そう

授業力の向上を図るために、日ごろから授業実践を振り返って改善していくことが大切である。

(1) 授業改善の流れをとらえよう

授業改善をするためには、児童生徒の変容と指導との関連を考察し、指導の成果と課題を明らかにしなくてはならない。そして、有効な指導方法を次に生かし、より良い授業としていくことが授業改善である。

改善の流れを、国語を例にして、考えてみました。



【授業改善の流れ】

授業実践

- 学習前、学習中、学習後の実態
- 指導の記録
- 活動の記録 など

変容をとらえる

- 観点別目標の達成度
- 発言内容
- ノート、作品、レポート、実技、資料の活用状況
- 新たな課題への取組状況
- 自己評価、相互評価
- 関心、意欲、態度
- アンケート結果の比較

変容と指導との関連を考える

- 効果があった指導は何か。
- 効果が上がらなかった指導は何か。
- 教材・教具は有効であったか。
- 指導過程は適切であったか。
- 指導形態とのかかわりはどうか。

より良い授業にする

- 効果のあった指導を他の場面に応用する。
- これまでとは違う指導を考える。
- 指導形態、指導過程、教材・教具等の工夫をする。

【例（国語）】

- ・評価記録
- ・ノートの記述
- ・学習感想
- ・書き込みをした指導案

- 具体的な評価規準に対する達成度は、それぞれ ～ であった。
- 教科書をすらすら読めるようになってきた。
- 文章を根拠にして自分の考えを説明することが十分できていない。
- 誤字や脱字が多い。

- 音読や群読の指導が有効であった。
- 文型を示した指導をすると良いのではないか。
- 中心語句や中心文を探させる指導が不足していたのではないか。
- 漢字や語句の指導の充実が必要ではないか。

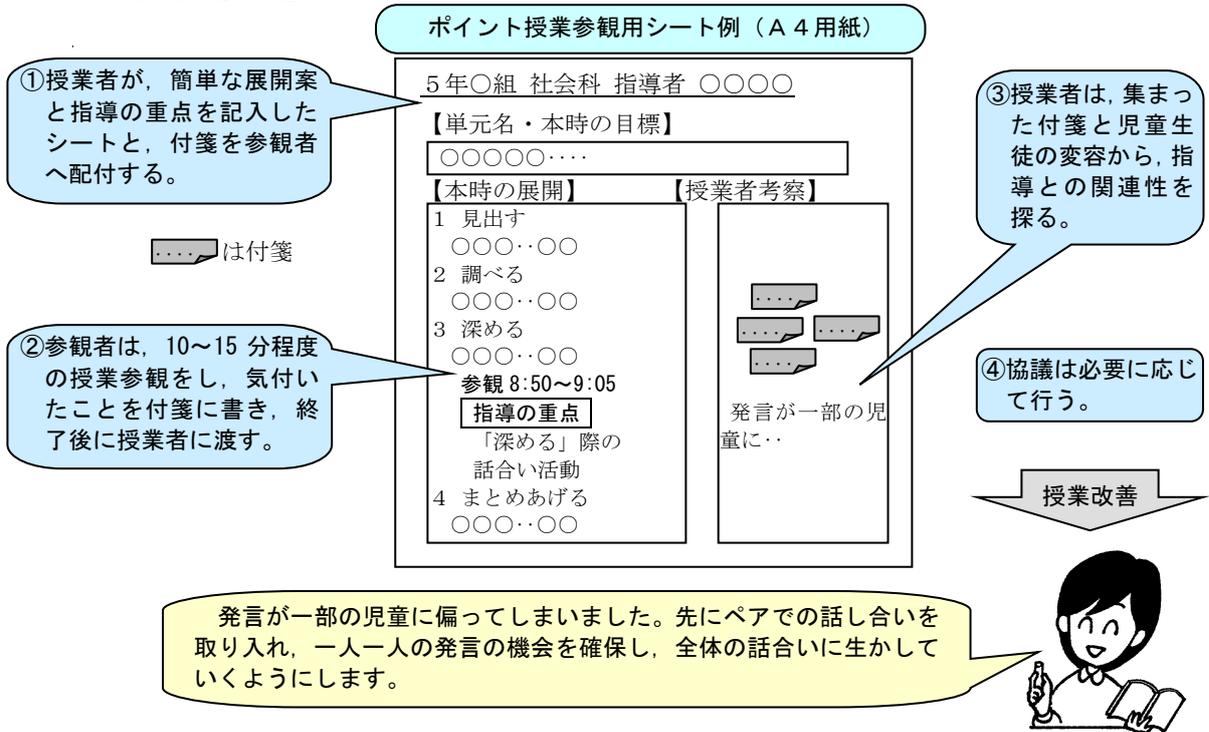
- 音読指導を継続する。
- 話型や文型を活用した発表や説明をさせる。
- 中心語句、中心文などを探す指導を充実する。
- 漢字や語句の繰り返し学習を工夫する。

(2) 協働で授業改善をしよう

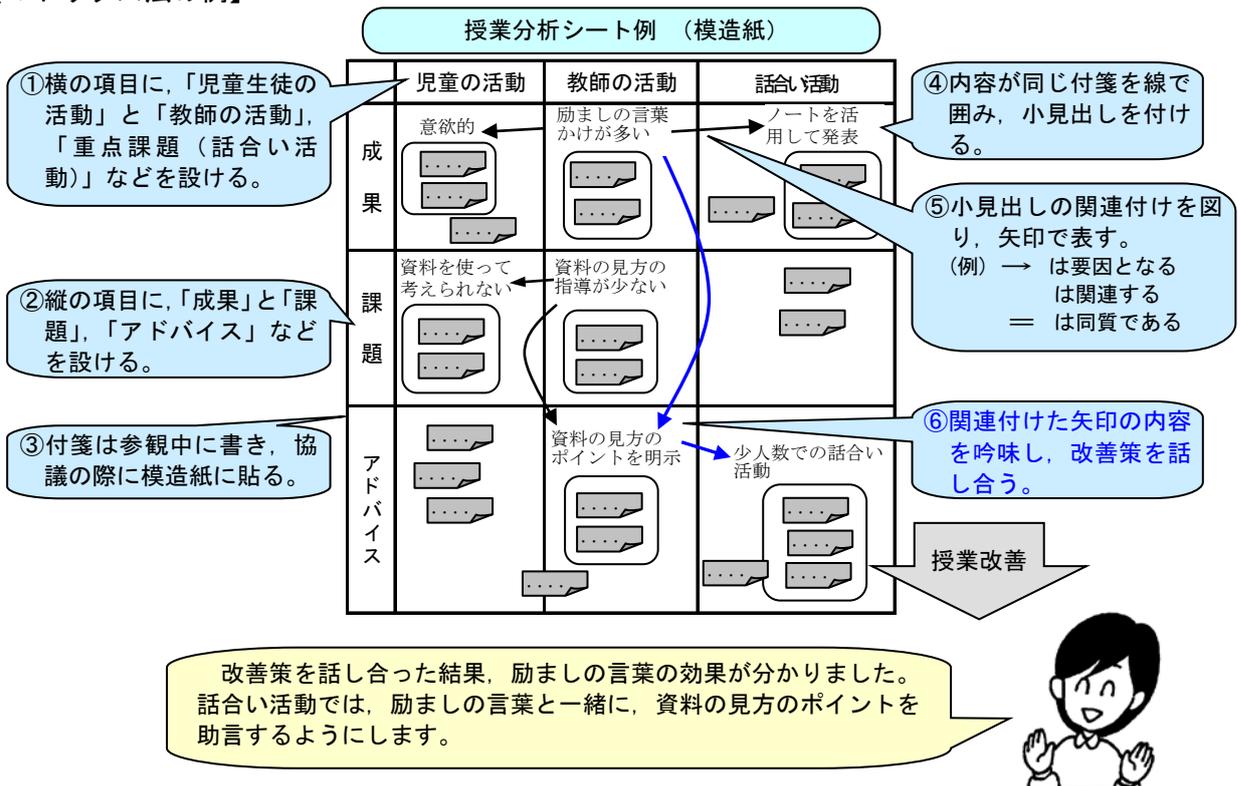
授業を互いに参観し、得た情報を共有することで、児童生徒の変容をより詳細にとらえ、授業改善に結び付けることができる。

例えば、「ポイント授業参観」は、授業の一部分における指導技術や指導の効果を考察することに適している。また、「マトリクス法」は、付箋に書かれた内容の関連性を探ることから、指導と評価の一体化につなげやすい。（「校内研究ガイドブック」P.11～13 参照）

【ポイント授業参観の例】



【マトリクス法の例】



(3) 意見や感想も考察に役立てよう

児童生徒や参観した保護者からの意見・感想を考察に役立てると、客観性が高まる。

【児童生徒へのアンケートの例】

※あてはまる()に○を入れましょう。	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	ほとんど 思わない
① 授業はよく分かる。	()	()	()	()
② 授業を受けてもっと調べてみたくなった。	()	()	()	()
③ 先生の説明は分かりやすい。	()	()	()	()
④ 授業に対する意見や感想があったら書いてください。				

「授業の理解度」「意欲」「指導スキル」「意見・感想」など、必要な項目立てをして、具体的な設問を考えましょう。



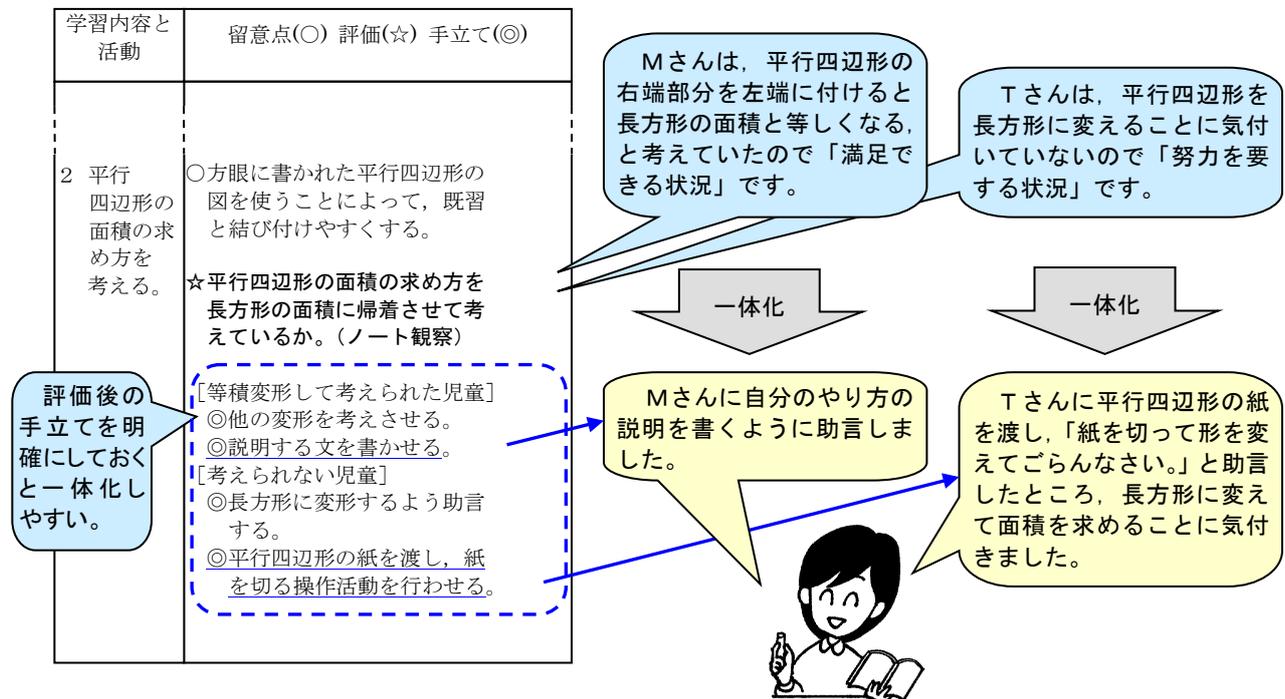
2 形成的評価で指導と評価の一体化を図ろう

授業改善には「指導と評価の一体化」が欠かせない。評価を即時に指導に反映させることが大切である。

【形成的評価を生かした指導と評価の一体化 例（小5 算数）】

本時のねらい

- ・平行四辺形の面積の求め方を既習の図形を基にして考えることができる。（数学的な考え方）
- ・平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連付けて求めようとする。（関心・意欲・態度）



3 全体を振り返ろう

日ごろから授業改善に努めていても、授業づくり全体の振り返りが不十分なために、成果が上がらない場合がある。授業力の4つの力すべてについて評価し、改善していくことが大切である。次ページの「授業力チェック表（例）」を活用し、授業力向上に努めていただきたい。

授 業 力 チ ェ ッ ク 表 (例)

項目	番号	評価項目	評価					
			A	B	C	D		
授 業 企 画 力	授 業 構 想	1	学習指導要領の目標や内容等を理解している。					
		2	児童生徒や学校の実態に即した授業構想となっている。					
		3	習得、活用、探究等を意識して、指導計画を作成している。					
		4	系統性や目標の分析を指導計画に生かしている。					
		5	自校の重点課題を指導計画に位置付けている。					
		6	具体的な評価規準の作成ができる。					
		7	学習活動、評価、重点課題など総合的な関連を図った指導計画になっている。					
		8	目標達成のための手立てを明確にした指導案が書ける。					
	教 材 研 究	9	教科書から指導内容を読み取り、授業の組立ができる。					
		10	教材化の意識をもって事象を見たり、情報を収集したりしている。					
		11	ねらいや実態を踏まえて、素材を教材化している。					
		12	地域との連携の視点で、教材を見たり開発したりしている。					
授 業 展 開 力	授 業 環 境	13	自分自身の話し方を客観的にとらえ、見直している。					
		14	話しやすい雰囲気や環境づくりを心がけている。					
		15	学習効果や学習意欲を高める教室掲示を工夫している。					
	授 業 構 成	16	個に応じた指導法や手立てを工夫している。					
		17	教えることと考えさせることをはっきりさせて学習指導をしている。					
		18	習得、活用を図る学習過程(授業の3つの場)を工夫している。					
	授 業 ス キ ル	授 業 ス キ ル	19	学習場面に応じた発問を考え、使い分けている。				
			20	作業指示を含んだ発問をしている。				
			21	分かりやすい説明を工夫している。				
			22	構造的で効果的な板書をしている。				
			23	基本的な学習ルールをつくり、定着させている。				
			24	指名を工夫して効果的な授業をしている。				
実 態 把 握 力	学 習 前	25	個々の学習意欲や興味関心を把握している。					
		26	これまでの学習状況を把握している。					
	学 習 中	27	具体的な評価規準を基に達成状況を把握している。					
		28	児童生徒の反応や変容に気づき、フィードバックしている。					
	学 習 後	29	観点ごとに達成状況を把握している。					
		30	単元全体を通した児童生徒の変容を明らかにしている。					
授 業 改 善 力	分 析 業	31	指導の効果を他の教師や児童生徒等の評価から客観的にとらえている。					
		32	児童生徒の変容と指導の効果を関連付けて考察し、授業改善に生かしている。					
	一 評 指 体 価 導 化 の と	33	形成的評価を生かして指導と評価の一体化を図っている。					
		34	授業力の4つの力すべてについて振り返り、授業改善に努めている。					

(A:大いにあてはまる ←————→ D:改善すべき)



みんなで取り組む **千葉の教育**

「授業づくりガイドブック ■授業カアップ■」

平成27年3月改訂

発行：千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1166

FAX 043-272-5128

ホームページアドレス <http://db.ice.or.jp/nc/>